

2022年度 日本工学院専門学校											
コンサートイベント科											
コンサートプロダクト4 (PA)											
対象	2年次	開講期	後期	区分	選択	種別	実習	時間数	270	単位	9
担当教員	中里 哲也			実務 経験	有	職種	PAエンジニア				
担当教員紹介											
音響系学科卒業後、レコーディングスタジオ業務に従事しとして経験を積む。あわせてコンサート・イベント現場においてPAアシスタント～オペレーターの実務経験を積む。 現職では音響に関わる基本知識（音響理論・ミキシング技術）からデジタルコンソールの概念・スピーカのフライング等の授業を担当する。											
授業概要											
コンサートPAスタッフとしての必要な知識の理解をはじめ、仕込み作業をスピードアップさせPAチームとしてのワークスタイルを確立し、更なるミキシングテクニックを実践的に学ぶ。この科目を受講する学生は、コンサート・イベント業界の中が協働の場である事を理解し、これまでは経験した事が無い舞台業界で求められる技術、知識を理解できるようになる。舞台とは「総合芸術である」その舞台演出の中でも音という分野を担当するという事はどのような事なのかを理解する。舞台音響業界はどのような人材を求められているか、その為にはどのような知識が必要で、どのような人間であれば良いかを理解できる様になる。											
到達目標											
1年次で得た技術、知識をもとに、即戦力となるPAスタッフを目指す実習である。この科目は、学生が目指しているコンサート・イベント業界の中で活躍するイメージを持ち、その社会の中で自分を位置づけ、その中で音響業務を担う為の技術習得を目標とする。音響業界でもライブツアーやホール管理、楽器店など多種多様な進路があり、その志望している業種、企業、職種を自分の適性や関心を結びつけて理解を深めること、そして就職志望する企業、組織で協働する事の重要性を理解できるようになることを目標とする。											
授業方法											
出演者資料を基に必要な機材・仕込み図や回線表を作成する力を養い、その資料をもとにセッティング・音響調整等を行う。またその作業を反復練習することにより、理解度とスピードを上げていく。それに必要な知識、技術をゼミも併用して身につけ、グレード試験にて自己確認し次回の達成課題とする。共同で行う作業も多いが個別に担当する役割を確実に遂行し、その報告・調整等コミュニケーション力も合わせて培う。											
成績評価方法											
試験・課題	40%	課題毎に提出。検定試験の受験・点数により評価									
レポート	10%	理解度を確認するために実施する。									
平常点	50%	実習時間内に行われる発表方法や内容、積極的な授業参加度、授業態度・出席状況によって評価する。									
履修上の注意											
コンサート・イベント科PA実習室等、にあるPA（音響）機材を使用する。重量物も多くあるので怪我などしない様に安全第一で行う。また機材破損の無いように十分注意する。動きやすいパンツ、靴で臨み、実習ジャンパー、実習Tシャツを着用すること。作業用のグローブの着用、また必要に応じてヘルメットの着用もすること。長髪は結ぶこと。授業時数の4分の3以上出席しない者は、成績評価の対象としない。											
教科書教材											
適時、参考プリント、資料などを配布する。											
回数	授業計画										
第1回	前期復習 / 前期の復習（セッティング反復練習、技術確認等）を行い、身につけている事を理解する										
第2回	機材研究1 / 実践的デジタルミキサー卓のセッティングとオペレーション方法を研究する										
第3回	機材研究2 / 実践的スピーカチューニング（メインスピーカシステムチューニング）を習得する										
第4回	機材研究3 / 楽器研究（ドラムチューニング、PAサウンドチェック）する										
第5回	本番プロジェクト実習1 / 学園祭プロジェクト 制作準備（セッティング、リハーサル模擬）を行う										

2021年度 日本工学院専門学校	
コンサートイベント科	
コンサートプロダクト4 (PA)	
第6回	本番プロジェクト実習2 / 学園祭プロジェクト 本番、撤収にて作業工程を理解する
第7回	本番プロジェクト実習3 / 学園祭プロジェクト 反省と検証、次回へ向けて課題確認する
第8回	音響測定1 / 音場研究と音響測定概念を学び、理解する
第9回	音響測定2 / 音場研究と音響測定の方法を習得し、技術を養う
第10回	楽器研修 / 楽器研究 (オンライン動画、安定した楽器電源の仕込み、楽器エフェクターについて) を行う
第11回	ライブ実習1 / 卒業ライブ 制作準備 (プランニング、仕込み、オペレート、チューニング練習) を行う
第12回	ライブ実習2 / 卒業ライブ 制作準備 (制作準備 (リハーサル、セッティング模擬)) を行う
第13回	ライブ実習3 / 卒業ライブ 本番を通じて作業工程を理解する
第14回	グレード試験1 / グレード試験 対策実習。実技試験を通じて、習得できた技術を確認する
第15回	グレード試験2 / グレード試験。実技試験を通じて、習得できた技術を確認する

2022年度 日本工学院専門学校											
コンサートイベント科											
コンサートプロダクト4 (舞台)											
対象	2年次	開講期	後期	区分	選択	種別	実習	時間数	270	単位	9
担当教員	嶋田円歌			実務 経験	有	職種	アーティストマネジメント・コンサート制作				
担当教員紹介											
<p>大学で演劇を専攻し、主に舞台美術、照明、舞台監督について実践的に学んだ後、音楽業界でアーティストマネジメント及びコンサート制作業務に13年間携わる。現場で培った経験を活かした実習指導を行いながら、就職活動のサポートも積極的に行っている。</p>											
授業概要											
<p>より対外的なコンサートやイベントの実施に関わることとなります。学生の学びの場から、成果発表へのステージアップが図られていきます。最終的な評価はコンサートの成功とされ、本質的な部分では観客の印象が評価となります。製作課程の様々な状況は、互いのスキルアップによって、より複雑化していきます。求められるのは他のセクションを統率していく為の説得力と実行力となります。説得力を身に付けるには感性や感覚だけではなく、理論に裏付けされたアイデアの修得、実行力には作業の精度と速度を高める反復力が不可欠です。</p>											
到達目標											
<p>かまた祭、卒業ライブと観客の層を更に広げたものを意識したコンサートの成功を目指します。本番のクオリティだけではなく、アイデアを出し合うブレインストーミング、デザインや演出内容の判断基準をあげていきます。社会人としての目標である就職先でのルールに適用する技術とスピード、コミュニケーション能力などの向上を目指します。製作課程における様々な困難に対して実施した試行錯誤、コンサートの成功の為に必要な責任感、成功から得られる達成感を、今後の自分の職業や人生において活用し、人間力を高めていくことを目標とします。</p>											
授業方法											
<p>アイデア抽出におけるブレインストーミングにおいて、リサーチの幅を拡大していきます。既に実施して習得したとされる作業や資料作成の為に活用したVector Works やExcelのスキルに対し、スピードとクオリティをあげ、また反復性と拡張性を求めていきます。それにより、当該分野である音楽業界のみならず、パソコンスキルやコミュニケーションスキルが欠かせないと言われる、ほぼ全ての業界に向けても必要最低限の知識技術を培います。またコミュニケーション能力の向上の為に、何が必要であるかを見極め、それに必要な取捨選択を出来るような判断力を身に付けるために、P D C Aを繰り返し実施し、自ら考え、挑戦していくことで、スキルを向上させます。</p>											
成績評価方法											
授業成果	60% 実習への取り組み姿勢、特にチームワークで臨む実習、それに向けた準備についての貢献度を評価										
提出課題	20% 定期的な課題の提出率、提出内容で評価。										
グレード試験	20% 試験の合否										
履修上の注意											
<p>仕込、リハーサル、本番に向けて、それぞれの局面における更新、変更事項に対する資料の修正、改善などをしていくのは、必須となります。その際のフォーマットのクオリティ、それらを各セクションで共有する手段と伝達方法は、作成するコンサートによって最善の方法が違ってきます。またデザインアイデアなどは、様々なコンサートを参考にできるように、常日頃の自主学習（アイデアの収集）は欠かせません。授業時数の4分の3以上出席しない者は単位を取得することが出来ない。</p>											
教科書教材											
Vector Works 2021 Student edition microsoft office (特にExcel) google driveなど											
回数	授業計画										
第1回	玉掛け、小型クレーン 講習 / 玉掛け、小型クレーンなどの目的や必要性などを学習。希望者は修了証取得のために別途受講。										
第2回	特殊効果特別講義 / 特殊効果の会社のデモンストレーションから、種類や方法などを学ぶ。										
第3回	学内ライブ準備① / タイムテーブル、進行表、図面を仮組を元に修正、決定したステージセットに必要なアイテムを製作										
第4回	学内ライブ準備② / テクニカルリハーサル 照明、音響とともに仕込、出演者なしのリハーサルで技術的な問題点を確認										
第5回	学内ライブ準備③ / リハーサル 照明、音響とともに仕込、出演者ありでのリハーサル。本番の成功に向けた修正										

2022年度 日本工学院専門学校	
コンサートイベント科	
コンサートプロダクト4（舞台）	
第6回	学内ライブ本番 / 片柳アリーナ、A-Stage、Box Stage、片柳記念ホールにて仕込、本番、撤収
第7回	卒業ライブ立ち上げ / 卒業ライブスタッフ決定 様々なプランニング開始 スケジュール立案
第8回	卒業ライブ1, 2 準備① / デザインアイデア、タイムテーブル、進行表、図面の作成、会場となるライブハウスの資料習熟
第9回	卒業ライブ1, 2 準備② / 演出に電飾や映像を組み込むためのプログラミングや仕込み方の練習
第10回	卒業ライブ1, 2 準備③ / デザインアイデア、タイムテーブル、進行表、図面のブラッシュアップ
第11回	卒業ライブ1, 2 準備④ / デザインアイデアの仮組 作業状態や作業手順の確認、ステージセットデザインの決定
第12回	卒業ライブ1, 2 準備⑤ / タイムテーブル、進行表、図面を仮組を元に修正、決定したステージセットに必要なアイテムを製作
第13回	卒業ライブ1, 2 準備⑥ / 照明、音響とともにテクニカルリハーサル、出演者を加えてリハーサルを実施。本番に向けて修正
第14回	卒業ライブ1 本番 / 卒業ライブ①本番 (Zepp Haneda)
第15回	卒業ライブ2 本番 / 卒業ライブ②本番 (Zepp Hasneda)

2022年度 日本工学院専門学校											
コンサートイベント科											
コンサートプロダクト4 (企画)											
対象	1年次	開講期	後期	区分	必修	種別	実習	時間数	270	単位	9
担当教員	佐藤礼央			実務経験	有	職種	イベント企画				
担当教員紹介											
青山学院大学院総合文化政策学修士課程修了。テレビ番組、CM、映画音楽の制作を20年行う。企画、新規事業立案、ビジネスモデル立案などを担当した実務経験を持つ。											
授業概要											
<ul style="list-style-type: none"> ・社会人としての「品格（挨拶、身なり、鉛筆の持ち方、食事の作法、姿勢、傾聴）」を習得。 ・常に相手の立場を考えた行動言動を図る想像力を身につける。 ・産官学地域連携、分野横断プロジェクトなど、実践的なイベント企画制作を通して社会に出るためのスキルと人間力を培う。 ・企業や地域社会（大田区）とのヒアリングを通し、本質的な課題を抽出し、KPI/KGIの適切な設定能力を養う。 ・データに基づいた、マーケティングの方向性の設定。 ・課題の解決につながるコンセプトの発案。 ・「戦略」をより機能させるための最適なクリエイティブを通した「戦術」の提案能力を付ける。 											
到達目標											
<ul style="list-style-type: none"> ・大田区産官学連携プロジェクトに基づいた実践的なイベント制作を通して、企画力・マーケティング能力を身に付けることができる。 ・SDGsを主軸とした学習活動を通して、社会問題に対する興味関心と、「高い倫理観」を養う。 ・課題発見・課題解決のために、仮説を立て、計画を練り、思考錯誤を繰り返す学習を通して、「戦略」をより機能させるための最適な「戦術」の発案能力を身につける。 											
授業方法											
<ul style="list-style-type: none"> ・授業の際に、口頭で長時間伝えるのではなく、伝えたい内容を、パワーポイントや板書などを用いて分かりやすく簡潔に伝える努力をする。 ・学生自身が、「今、何を学んでいるのか？」を理解できるように指導する。 ・時間に授業が終わるように管理を徹底する。 ・学生にはメモを取る習慣を身につけさせる。 ・習熟度の偏りが起きないように努める。 ・学年を超えて、学生同士が「教え合い」「学び合う」教育の場を設ける。 ・進路を常に意識させ、学習と共に就職活動を進めさせる。 											
成績評価方法											
課題提出	30%	定期的な課題の提出率、提出内容で評価。									
レポート提出	10%	定期的なレポートの提出率、提出内容で評価。									
グレード試験	20%	試験の可否で評価。									
実習成果	40%	習熟度・授業への取り組み姿勢を評価。									
履修上の注意											
<ul style="list-style-type: none"> ・授業の際に、口頭で長時間伝えるのではなく、伝えたい内容を、パワーポイントや板書などを用いて分かりやすく簡潔に伝える努力をする。 ・学生自身が、「今、何を学んでいるのか？」を理解できるように指導する。 ・時間に授業が終わるように管理を徹底する。 ・学生にはメモを取る習慣を身につけさせる。 ・習熟度の偏りが起きないように努める。 ・学年を超えて、学生同士が「教え合い」「学び合う」教育の場を設ける。 ・進路を常に意識させ、学習と共に就職活動を進めさせる。 											
教科書教材											
<ul style="list-style-type: none"> ・イベント検定テキスト ・他、イベント毎に必要な資料を都度、準備する。 ・書籍、名作、名画鑑賞。（時代と芸術の考察のため） 											
回数	授業計画										
第1回	オリエンテーション 「NFTとアート」「ブロックチェーン技術について」、ビジネスモデル、超高齢化などの基礎的な知識の習得。 SDGsをテーマにした産官学連携イベントの事例を紹介。 大田区商店街を視察。										
第2回	オータムイベント(かまた祭)に向けて 会場・ターゲット・集客方法などについての文献調査とリサーチ。 他の事例について対話を行い、グループに分かれレポートをバワポで作成し発表。 大田区商店街を視察。										
第3回	オータムイベント(かまた祭)に向けて イベント企画立案・会場装飾・広報活動。 SNSを活用したPR活動。動画制作。簡易的なWEBサイト制作など。大田区商店街を視察。										
第4回	オータムイベント(かまた祭)に向けて イベント企画立案・会場装飾・広報活動。 SNSを活用したPR活動。動画制作。簡易的なWEBサイト制作など。大田区商店街を視察。										
第5回	オータムイベント(かまた祭)に向けて イベント運営方法考案・制作・シミュレーション。大田区商店街を視察。										

2022年度 日本工学院専門学校	
コンサートイベント科	
コンサートプロダクト4 (企画)	
第6回	オータムイベント(かまた祭)本番 東急プラザ蒲田にて、学生主体でイベント運営
第7回	振り返り・報告書作成・まとめ 全体の総括を行い修了イベント実習に活かす。協力企業へイベント報告
第8回	ハイブリッドイベントでSNSをどう活用するかマーケティングに基づき考える
第9回	ハイブリッドイベントでSNSをどう活用するかマーケティングに基づき考える
第10回	イベントにおける搬入搬出について学ぶ
第11回	イベントにおけるオープニング映像・ジングルを制作する
第12回	製作物作成・準備・協賛・運営マニュアル作成・広報活動など各セクションに分かれて業務
第13回	イベント実施内容についての運営マニュアル読み合わせ・シミュレーション・リハーサル・企業様との打合せなど
第14回	ハイブリッドイベントの実施 オープニング映像を取り入れ、配信もあわせて実施
第15回	ハイブリッドイベントの目的に対する結果・課題などを検証 新社会人へ向けて2年間の振り返り・今後の目標キャリア形成

2021年度 日本工学院専門学校											
コンサートイベント科											
コンサートプロダクト4 (制作)											
対象	2年次	開講期	後期	区分	選択	種別	実習	時間数	270	単位	9
担当教員	森永 直樹			実務 経験	有	職種	マネジメント、ディレクター、A&R、プロモーション				
担当教員紹介											
森永直樹：マネジメント業務を軸に、コンサート制作、マネジメント、ディレクション、プロモーションから新人発掘に至るまであらゆるエンターテインメント業務の経験と知識を通して就職に強い人材を育てることができる また映像関連の業務（MV撮影、テレビ、映画など）にも携わっており学生の成長によって更なるカリキュラムの提供も可能											
授業概要											
多様化するコンサート・イベント業界に対応する為に、1年次に学んだコンサートの基本をより高度なものに高める。臨機応変な対応やトラブル対応など、実務として即戦力になれる力を身に付ける。コンサートの制作と運営の違いを学び、一つの公演を行うためにどれだけスタッフが必要か、制作としての役割と運営としての役割を実際のコンサートを行いながら実践的に習得する。効果的な宣伝を行うにはどのようにしたら良いか、学校内はもちろん学校外での流行や動きを積極的にリサーチし、得たものを形にし実行する。チームごとの学習を多く取り入れ、自分が伝えたい事をより明確に相手に伝えるためにはどのようにしたら良いか、自分で考える事が習慣づけるようになる。											
到達目標											
学校内での施設はもちろん、学校外の会場も使用し、1年次に培った経験を個々が活かし、円滑なコンサート運営を目標とする。ファンクラブ、グッズ、予算管理、チケット管理、客入れ客出しプラン作成、出演者とのやりとり、場内場外警備プラン作成、ロビー展開の考案、危機管理対策、コンサート運営に関するマニュアル作成とシミュレーション実施まで、チーム内で意見交換しながら作り上げていく。舞台・照明・PAなどテクニカルコースの学生を制作として統括するために、各セクションの役割を基礎実習で得た事を十分に活かしながら進行する。											
授業方法											
企業と手を組みながら、より本格的、多種多様なイベントへも参加し経験値を積む。 同時に複数のイベントを行い、より実務に近いカリキュラムを構築、実施。 学校外の会場を使用し、会場担当者との事前打ち合わせ等で得た情報を他コースへ共有し、情報共有の大切さを学ぶ。 コンサート制作コースの学生間、教員・講師との報連相を習慣づけ、コミュニケーション能力を身に付ける。											
成績評価方法											
提出課題	20%	冬期課題提出と内容を評価する。									
小テスト	10%	担当した出演者名や会場名、公演コンセプトなど理解度を確認する為に抜き打ちで実施する。									
アイデア力	30%	実現可能なイベントや企画を立てられるか？ マネタイズの部分まで視野にいれ客観的な判断ができるかを評価する。									
成果発表	40%	積極的な授業参加度、発表方法や内容・言葉遣いなどによって評価する。									
履修上の注意											
イベントやコンサートを行う際、一部の学生に作業と責任が集中することの無いよう、万遍なく学生を見る事を心がけ、偏りや最前が出ないよう配慮する。運営中、柵や看板など多くの備品を運ぶため、怪我をしないように十分注意する。音楽だけでなく演劇やフェスなど「エンターテインメント」全般の観劇や映像作品を鑑賞。PCで扱うイラストレーターも活用する。制作・運営の中でもどの職種をやりたいのかを明確にし、企業・組織で協働する事の重要性を理解できるようになることを目標とする。											
教科書教材											
ステージ・PA・照明用語辞典：毎回の授業で活用 オンライン授業動画：自宅での復習に活用											
回数	授業計画										
第1回	かまた祭（公演概要作成、役割決め）予算管理、経費、コンサートビジネスとしての意識づけ										
第2回	かまた祭（人員の配置など安全を第一に考えつつコストを踏まえた上で高度な配置を考案、配信ライブを想定し実施）										
第3回	協賛・パブリシティに関して（協賛の取り方やプレゼン方法、ライブレポート等、外部との関係性の構築するための基本を学ぶ）										
第4回	かまた祭（より具体的な進行台本の作成、テクニカルまで相対的に把握する）										
第5回	かまた祭（タイムテーブル通りに進行しているのか？何が予定と変わったのか考察し次に活かす）										

2021年度 日本工学院専門学校	
コンサートイベント科	
コンサートプロダクト4（制作）	
第6回	外小屋ライブ（公演概要作成、役割決め、コンセプト・テーマ決め、会場下見）
第7回	卒業ライブ（公演概要作成、タイトル/コンセプト/ロゴ決め、役割決め、会場下見）
第8回	卒業ライブ（顧客の管理、イベントの特性により最適な席次の構築、安全にかつ効率よい運営）
第9回	外小屋ライブ（予算立て、感染防止対策検討、出演者ブッキング）
第10回	卒業ライブ（グッズ、販促グッズ等の企画、立案、片柳アリーナにてシミュレーションを実施、宣伝方法提案・収集）
第11回	外小屋ライブ（学校外へ向けたプロモーション強化、配信ライブでのタイムスケジュール作成）
第12回	卒業ライブ（ポスター・フライヤーの作成、特別プロモーションの実施、お客様導線の装飾などイベント演出を考える）
第13回	外小屋ライブ（制作・運営のシミュレーション、タイムテーブルに沿って動きを最終確認）
第14回	卒業ライブ（前パブ、後パブなど媒体を使った宣伝の方法を理解、実施）
第15回	卒業ライブ・外小屋ライブ（在学中の反省を活かす、時間厳守・挨拶等基本を忘れず進める、総まとめ）